## 4. 法人の取り組み

2009 年 4 月 1 日の法人発足後、初めにセミナーレインを開催した。それ以降、鉄道茶論、地域鉄道フォーラムを開催して地域の鉄道の現状を参加者と共に知り学ぶ機会を設けると共に、2017 年からは鉄道旅の魅力、その旅情を表現する新たな芸術活動として「鉄道写真詩コンテスト」を開催している。

### (1) セミナートレインの開催

法人設立以前のセミナートレイン第 1 回と第 2 回の開催状況についても触れる。
法人設立後の開催は、第 3 回目からとなる。

#### ①第1回セミナートレイン「銚子電気鉄道」

2007 年 8 月 1 日第 1 回セミナートレイン「銚子電気鉄道」を開催した。

銚子電気鉄道本社において社長の小川文雄氏より現状の説明をいただいた後、高神地区コミニュティセンターに移動し、講演会を開催した。

プログラム

第 1 部（銚子電気鉄道　仲ノ町駅）13：00～13：40

〇銚子電気鉄道の現状　銚子電気鉄道社長　小川文雄 氏

第 2 部（高神地区コミュニティセンター 2 階　集会室）14：20～15：40

〇コミュニティと鉄道　銚子電気鉄道鉄道部次長　向後功作 氏

〇鉄道と広告　日本民営鉄道協会総務広報部長　原　潔 氏

#### ②第2回セミナートレイン「ひたちなか海浜鉄道」

2008 年 8 月 4 日ひたちなか海浜鉄道那珂湊駅において、第 2 回セミナートレイン「ひたちなか海浜鉄道」を開催した。

社長の吉田千秋氏より湊線の現状を説明いただいた後、同線の支援団体であるおらが湊鐵道応援団の団長を務める佐藤彦三郎氏より応援団設立の経緯とその活動報告をいただいた。

プログラム
13：14 勝田駅より乗車
13：40 阿字ヶ浦駅
13：40 講演
○「ひたちなか海浜鉄道の現状」ひたちなか海浜鉄道社長　吉田千秋 氏
○「おらが湊鐵道応援団の活動」団長　佐藤彦三郎 氏
15：10 終了

**③第3回セミナートレイン「千葉モノレール」**

2009 年 6 月 27 日（土）千葉モノレールにおいて、法人設立後として初めてとなる第 3 回セミナートレイン「千葉モノレール」を開催した。

千葉モノレールは、総延長 15.2 キロの懸垂型モノレールで、2006 年度上下分離による経営再建を果たしており、そこに至る原因と再建スキーム並びに鉄道の新輸送サービスについて学ぶ。参加人員　70 名

プログラム
13：00 千葉モノレール千葉みなと駅集合
13：19 貸切列車で移動 沿線ご案内
13：35 動物公園駅到着
13:45 千葉モノレール本社会議室入室
13：50 セミナー開始
講演
○「千葉の都市交通・総論」 佐藤信之 氏
○「千葉モノレールの現状」千葉都市モノレール株式会社経営管理室 今関真治 氏

○「千葉モノレールの再建スキーム」原 潔 氏
○ 「鉄道の新輸送サービス」国土交通省鉄道局業務政策課専門官 中田勝久 氏
質 疑
16：00 セミナー終了 千葉モノレール展示室等見学 自由解散

**④第4回セミナートレイン「山形鉄道大学」**

2010年10月30日（土）に山形鉄道においてセミナートレイン「山形鉄道大学」を開催した。、日常なにげなく「東北」という言葉を使っているが、その視点は東北のものではなく、地域の人が、地域の視点で自ら発信していくことの大切さを学んだ。参加者　午前の部26名、講演会　51名

プログラム

【午前の部】

10：40 赤湯駅集合　（参考：つばさ 105 号 東京 8：08→赤湯 10：38）

10：59 出発（207D）

○列車内 山形鉄道野村浩志 社長の挨拶
○ 宮内駅にて駅弁受け取り「もっちい」駅長がお出迎え
○交通環境整備ネットワーク 佐藤信之代表より挨拶
11：30 運転士方言ガイドの話しを聞きながら駅弁の昼食
11：54 荒砥駅着・・・資料館・車輌基地・最上川鉄橋ご案内
13：15 荒砥駅集合
13：25 荒砥出発（214D）

○フラワー長井線カリスマ販売員「のっちぃ」によるグッズ・乗車券販売
13：42 あやめ公園駅下車（あやめ会館へ移動）
14：00
○基調講演「鉄道と文化から考える東北」早稲田大学 田中 人 氏
○「子連れローカル鉄道旅行ー子鉄の楽しさ徹底解明―」

詩人・社会学者 水無田気流 氏
15：20「鉄道の元気、まちの元気」
◯講 演 ひたちなか海浜鉄道社長 吉田千秋 氏
◯銚子市観光プロデューサー・元銚子電鉄鉄道部次長向後功作 氏
16：30 閉会
会場より長井駅まで街を散策
17：00 長井駅出発
18：17 赤湯駅着 （参考：つばさ 128 号 赤湯 18：31→東京 20：56）

**⑤第5回セミナートレイン「東京の地下鉄探検」**

2012 年 3 月 24 日（土）国土交通省関東運輸局の後援により地下鉄博物館ホールにおいてセミナートレイン「東京の地下鉄探検」を開催した。東京の地下鉄網の発展の歴史とその土木技術及び最近の利便向上のための大規模工事の実際を学ぶ。参加者 24 名
プログラム
◯講演：「東京地下鉄の歴史」交通評論家 佐藤信之 氏
◯講演：「地下鉄建設技術のあゆみと最近の改良工事」東京地下鉄㈱鉄道本部改良建設部長 野焼計史 氏

**⑥第6回セミナートレイン「デハ101を語る」**

2015 年 9 月 19 日国土交通省関東運輸局の後援により第 6 回セミナートレイン「デハ 101 を語る」を開催した。上毛電気鉄道は、養蚕が盛んであった上毛地域とその輸出を行なう東京、横浜との交通利便を図る目的で大正 13 年に免許を取得し、昭和 3 年 11 月に現在の区間である中央前橋・西桐生間 25.4 キロを開業しているが、この開業時の車両、デハ 101 が今日に至るまで大切

に整備保存されており、この車両と当該鉄道に対する支援の状況を学ぶ。参加者30名

プログラム

13：00 中央前橋駅集合、受付終了後大胡駅まで電車にて移動

大胡電車庫においてセミナー

◯「あいさつ並びに鉄道の現状」上毛電気鉄道株式会社社長　古澤和秋 氏

◯「上毛電鉄の歴史」東武博物館名誉館長　花上嘉成 氏

◯「鉄道への支援活動」

2015 年の公共交通をつくる会会長・上毛電鉄友の会副代表　佐羽宏之 氏

その後デハ 101 にて西桐生駅まで乗車

登録有形文化財の西桐生駅を見学し、16：10 終了解散

**⑦第7回セミナートレイン「鈴木商店と鉄軌道」**

2018 年 8 月 20 日東京都中央区立産業会館第 2 集会室において、第 7 回セミナートレイン「鈴木商店と鉄軌道」を開催した。

鈴木商店は明治 7（1874）年に創業し、樟脳、製糖、麦酒、小麦等の事業を展開、その後化学、金属、造船、鉄道業等に進出、大正年間には日本一の総合商社となったが、昭和金融恐慌を機に昭和 2 年(1927 年)に経営破綻をした。この鈴木商店が関わった鉄軌道業に焦点をあてて、但馬軽便鉄道、肥筑軌道、山陽電気軌道、帝国炭業・鞍手軽便鉄道、羽幌炭砿鉄道等の計画やその後の足取りを学んだ。参加者　13 名

プログラム

◯講演　鈴木商店と鉄軌道 18：30〜20：00

特定非営利活動法人 須磨歴史倶楽部 理事長　小林善彦 氏

### ⑧第8回セミナートレイン「路面電車のある街・豊橋」

2019 年 3 月 9 日に第 8 回セミナートレイン「路面電車のある街・豊橋」を開催した。

鉄道アーティストの小倉沙耶様の司会でセミナーを開始し、豊橋鉄道鉄道部部長梅村仁朗氏からごあいさつと路面電車の現況について説明を受ける。とよはし市電を愛する会顧問の伊奈彦定氏からはこれまで描き続けてきた路面電車の絵画から、その歴史と未来への期待を、社会学者で愛知学泉大学講師の田中人氏からは社会学の観点から路面電車と地域の関わりに関して講演をいただいた。赤岩口車両区では、車両やピットのほか、1880 年代の貴重なレールの数々を確認。豊橋市民から「市電」と愛されて 90 余年のそのあゆみと路面電車の魅力に触れた一日となった。参加者　25 名

プログラム

〇講演の部　13 : 10～14 : 45（豊鉄ターミナルホテル 9 階　多目的展望ホール「オーロラ」）

13 : 10　セミナー開始 司会　鉄道アーティスト　小倉沙耶氏

13 : 15　ごあいさつ　豊橋鉄道株式会社鉄道部部長　梅村仁朗 氏

13 : 25　講演 1

「とよはし市電のあゆみとこれから」とよはし市電を愛する会顧問　伊奈彦定 氏

13 : 55　講演 2

「路面電車－社会学からのアプローチ」社会学者・愛知学泉大学講師　田中人 氏

14 : 25　質疑

14 : 45　講演の部終了

〇見学の部　14 : 45～17 : 00　（豊橋鉄道赤岩口車両区）

14 : 45　駅前に移動

15 : 13　豊橋鉄道東田本線「駅前」乗車

15 : 35　「赤岩口」到着　赤岩口車両区見学

16 : 20　「赤岩口」乗車

16：41「駅前」到着
17：00　セミナー終了・解散

### (2) 鉄道茶論（てつどうさろん）の開催

鉄道茶論は、歴史的建造物や古くからの飲食店等を使って、お茶を飲みながら肩肘はらない雰囲気の中で鉄道談義を行う趣旨で始まった。

法人設立前に第1回を開催している。

#### ①第1回鉄道茶論「いすみ鉄道応援プロジェクト」

関東運輸局千葉運輸支局の後援をいただいて、2008年11月15日（土）大多喜町大屋旅館の大広間を借り、第1回鉄道茶論「いすみ鉄道応援プロジェクト」を開催した。佐藤信之より講演の後、共に公募で選ばれたいすみ鉄道とひたちなか海浜鉄道の両吉田社長のトークが繰り広げられた。参加費は1,000円。

プログラム
13：15　「コミ鉄ソサエティの説明」　原潔氏
13：30　「大多喜町の交通文化の生成期について（明治～大正）」佐藤信之 氏
14：10　「いすみ鉄道とひたちなか海浜鉄道の挑戦」吉田平氏・吉田千秋 氏、（進行）向後功作氏
14：50　休憩（お茶と菓子）
15：05　フリートーク
15：45　「まとめとご挨拶」関東運輸局千葉運輸支局長　佐藤由佑 氏
16：00　終了

#### ②第2回鉄道茶論「房総横断鉄道」

2010年2月6日、関東運輸局千葉運輸支局の後援により千葉県市原市サンプラザ市原において第2回鉄道茶論「房総横断鉄道」を開催した。白土貞夫氏の講演により小湊鉄道の歩みを学んだ。その後有志により小湊鉄道保存蒸気機関車を見

学し、五井より乗車。上総中野でいすみ鉄道に乗り換え大原に至る房総横断鉄道の旅を実施した。参加者　37 名
プログラム
10：00　開会 ビデオ上映「ローカル線紀行」解説 佐藤信之
10：35 上毛電気鉄道友の会設立の報告
10：40 講演「小湊鉄道の歴史」 鉄道史学会会員 白土貞夫 氏
11：40 フリートーク
11：55 「総括及び閉会のあいさつ」関東運輸局千葉運輸支局長 飯村 勉 氏
12：00 終了

**③第3回鉄道茶論「津軽鉄道応援者の集い」**

2013 年 7 月 6 日、四谷ルノワールにおいて第 3 回鉄道茶論「津軽鉄道応援者の集い」を開催した。(18:00～20:00)

津軽鉄道は、地元津軽鉄道サポーターズクラブのほか、東京においても津軽鉄道東京応援団が組織され、大学鉄道研究会や、個人でも数多くの人が津軽鉄道を応援している。そのような人たちが一堂に会して津軽鉄道を語ろうとの趣旨で開催したもので、応援メンバーのほか、津軽鉄道社長の澤田長二郎氏と同社顧問の澁谷房子氏も入って総勢 29 名が参加した。

佐藤信之より主催者あいさつ、澤田社長より日ごろの支援に対して感謝の辞を述べ、その後、応援者を代表して、東京側からは小学館の三浦一夫氏、津軽側からは津軽鉄道サポーターズクラブ会長の高瀬英人氏からそれぞれ応援活動について報告があった。

各人からは、津軽鉄道との関わりを含めて自己紹介が行われ、それぞれの津軽鉄道に対する愛着が述べられた。

津軽鉄道からは、旅客の増大、DMV の導入、ストーブ列車の保守維持等の諸課題がある中で、特に旅客の増大のために積極的な営業の推進とお客様を呼ぶための魅力を増進させるとの強い決意が表明され、それに沿って一同応援を行っていくこととなった。

### ④第4回鉄道茶論「千葉の鉄道119年目」

2013 年 7 月 27 日、千葉市稲毛区の Lounge & cafe　Aka-Tombo リカープラザ 3 階において第 4 回鉄道茶論「千葉の鉄道 119 年目」を開催した。(15 : 30～17 : 30) 参加者　17 名

総武線の前身となる総武鉄道が明治 27 年 7 月 20 日に開業して 119 年目。 JR 稲毛駅前の喫茶店を借り切り、当法人の代表理事で交通評論家の佐藤信之が鉄道史研究家の白土貞夫氏と元千葉鉄道管理局広報室長を務めた金子幸雄氏と共に、総武線の歴史をたどりつつ座談会を行った。総武鉄道では、日本の鉄道製造会社が製造した初の車両を使用し、日本初の鉄道高架橋を築いたことなどの興味深い話が紹介された。

概要録　https://ecotran.or.jp/act/130727/record.pdf

### ⑤第5回鉄道茶論「湊線の歴史を語る会」

2013 年 11 月 16 日、ホテルニュー白亜紀において、第 5 回鉄道茶論「湊線の歴史を語る会」を開催した。(14 : 00～17 時 00) 参加者 26 名

ひたちなか海浜鉄道湊線が 100 周年を迎えることから、同線の歴史を話題とし、ひたちなか海浜鉄道吉田千秋社長のあいさつの後、佐藤信之より、湊線の免許から開業に至る状況を、当時の鉄道古文書を示しながら解説を行った。ひたちなか海浜鉄道危機管理室長の北見延久氏からは湊線と水戸とのつながりや夏季輸送や施設の近代化を進めてきたこと、国鉄真岡線からきたキハ 112 を元の国鉄色に変えようとした時、色見本が JR にもなく、独自に写真や文献で研究して何回も試行錯誤しながら色合わせに成功したことが述べられ、親子二代にわたって湊線に奉職

し駅長を務めた柏昭太郎氏からは夏季の海水浴客輸送では国鉄との連絡ダイヤの交渉での苦労話を伺うことができた。

**⑥鉄道茶論番外編「津軽鉄道80周年記念シアタートレイン」**

2010 年 7 月 3 日、津軽鉄道津軽五所川原駅留置客車内において「津軽鉄道 80 周年記念シアタートレイン」を開催した。（15：20～17：40）

佐藤信之代表が「津軽鉄道の魅力」について語るとともに栗山弘監督『津軽の鉄道』及び『東北ローカル線の再生』の上映を行った。

**（3）地域鉄道フォーラムの開催**

地域鉄道の現状を広く知っていただくために、毎年地域鉄道フォーラムを開催している。

**①第1回地域鉄道フォーラム「地域コミュニティと鉄道運営」**

2009 年 11 月 7 日、東武博物館ホールにおいて第 1 回地域鉄道フォーラム「地域コミュニティと鉄道運営」を開催した。

法人設立後初めて開催するもので、地域鉄道の現状とその活性化方策について考えていただくことを目的とした。第 1 回を記念して、東武博物館館長の花上嘉成氏に「東武博物館のあゆみ」と題して講演を願った。参加者は 53 名

プログラム

13：00　開演のあいさつ　代表理事　佐藤信之

13：05　基調講演「住民主体のまちづくりとその背景―地方鉄道活性化の条件」

早稲田大学・亜細亜大学講師　田中　人 氏

13：30　講演「津軽鉄道の現状と課題」

津軽鉄道株式会社　代表取締役社長　澤田長二郎 氏

13：55　講演「ひたちなか海浜鉄道の現状と課題」

ひたちなか海浜鉄道　代表取締役社長　吉田千秋 氏

14：20　総括講演　「街中再発見から始まる鉄道活性化」

銚子電気鉄道株式会社　鉄道部次長　向後功作 氏
14：45　質疑
15：00　記念講演　「東武博物館のあゆみ」東武博物館館長　花上嘉成 氏
15：30　閉　会

**②第2回地域鉄道フォーラム「公募社長サミット in 東京」**

2010年6月12日、国土交通省鉄道局の後援、第三セクター鉄道等協議会との共催により、東武博物館ホールにおいて第2回地域鉄道フォーラム「公募社長サミット in 東京」を開催した。

経営難の鉄道会社社長に応募し、自らが果敢に事業再生へ取り組む姿を報告。なぜ、前職を投げ打ってまで苦難の道を選んだのか。現実を踏まえたレール維持のための計画の内容、更には地域住民に一番訴えたいことはなにか。地方ローカル鉄道の存在意義を問い直すとして開催した。これ以降の地域鉄道フォーラムは、定時社員総会の開催と併せて実施することとなる。参加者は183名

プログラム（13：00～15：30）
○地域鉄道の現状と課題について
講演者：山　形　鉄　道　（山形県）　社長　野村浩志 氏
ひたちなか海浜鉄道（茨城県）　社長　吉田千秋 氏
い す み 鉄 道　（千葉県）　社長　鳥塚　亮 氏
北　条　鉄　道　（兵庫県）　副社長　松本孝徳 氏
○公募社長サミット　「明日をめざして」
モデレーター　交通評論家　佐藤信之 氏
パネラー　山形鉄道社長　野村浩志 氏
〃　ひたちなか海浜鉄道社長　吉田千秋 氏
〃　いすみ鉄道社長　鳥塚　亮 氏
〃　北条鉄道副社長　松本孝徳 氏

講演録　https://ecotran.or.jp/act/100612/record.pdf

### ③第3回地域鉄道フォーラム「地域鉄道の安全防災対策について」

2011 年 6 月 11 日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援第 3 回地域鉄道フォーラム「地域鉄道の安全防災対策について」を開催した。

この地域鉄道フォーラムの開催に先立つ 3 月 11 日には東日本大震災が発生、多くの人命が失われた。鉄道においてもその損傷は大きかったが、震災復興のためには鉄道の早期復旧が欠かせない。常日頃からお客様の安全を確保し、自然災害にも強くなるよう全力を尽くしてきた鉄道であるが、今回の大震災で、鉄道による死者が一人も出なかったことは関係者として少なからず安堵した。あらためて地域鉄道に対する国の支援の仕組み、鉄道の安全防災対策の現状や技術を知り、鉄道利用者、沿線住民としても安全防災に寄与できる役割を考える機会となるよう開催した。参加者 61 名

横田孝洋氏

宇賀神　博氏

河合　篤氏

プログラム（13：00～15：00）

講演

○「地域鉄道支援の概要」

国土交通省鉄道局地域鉄道支援室長　横田孝洋 氏

○「東武鉄道の安全防災対策の取り組み」

東武ステーションサービス株式会社常務取締役

宇賀神　博 氏（前　鉄道事業本部安全推進部課長）

○「地域鉄道の安全防災対策」

公益財団法人鉄道総合技術研究所理事　河合　篤 氏

講演録　https://ecotran.or.jp/act/110611/record.pdf

### ④第4回地域鉄道フォーラム「全国公募鉄道社長サミット in 東京」

2012 年 6 月 9 日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援第 4 回地域鉄道フォーラム「全国公募鉄道社長サミット in 東京」を開催した。2010 年 6 月 2 日開催の第 2 回地域鉄道フォーラムで公募社長サミットを開催したところ、大変な反響を呼んだことから、その後公募による社長に新たに就任された方も交えて、再び全国の公募鉄道社長が一堂に集い、地域と鉄道について論じた。参加者 172 名

プログラム（13：00～15：30）
〇開会の辞：交通環境整備ネットワーク審議役　松本孝徳 氏（北条鉄道　前副社長）
〇公募鉄道社長による講演「地域と鉄道」

| | | | |
|---|---|---|---|
| 秋田内陸縦貫鉄道 | （秋田県） | 社長 | 酒井　一郎 氏 |
| 由利高原鉄道 | （秋田県） | 社長 | 春田　啓郎 氏 |
| 山形鉄道 | （山形県） | 社長 | 野村　浩志 氏 |
| ひたちなか海浜鉄道 | （茨城県） | 社長 | 吉田　千秋 氏 |
| 千葉都市モノレール | （千葉県） | 社長 | 大澤　雅章 氏 |
| いすみ鉄道 | （千葉県） | 社長 | 鳥塚　亮 氏 |

〇全国公募鉄道社長サミット：公募社長によるパネルディスカッション

講演録　https://ecotran.or.jp/act/120609/record.pdf

この地域鉄道フォーラムを記念して 6 社合同の記念入場券セットの発売を行った。

台紙イメージ（表紙）

台紙イメージ（中面）

## 発売箇所①　６社での販売

・６社２００部づつ番号０００１～から１２００番を振り分けて販売致します。発売駅等は、それぞれの社のホームページでご確認下さい。
・発売番号のお問い合わせはご遠慮下さい。

## 発売箇所②　東武博物館ホール（エントランス）での販売

・会場では番号１２０１～から番号順に発売いたします。ご希望の番号の先行販売、取り置きは出来ません。
・お釣りがなるべく無い様にご準備下さい。なお支払いは現金のみとさせて頂きます。
・状況により発売点数を制限させて頂く場合がございます。
・発売開始時間は１１：００時です。発売開始時刻の１１：００以前の行列、博物館開館時刻の１０：００前の行列は御遠慮下さい。

## ご注意

・上記のお約束を守れない場合、発売を中止する場合が御座います。
・転売目的の購入・オークション出品目的の購入は御遠慮下さい。
・本件に関しての東武博物館へのお問い合わせは御遠慮下さい。

### ⑤第5回地域鉄道フォーラム「鉄道事業の再生・活性化に向けて」

2013 年 6 月 8 日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局・第三セクター鉄道等協議会後援第 5 回地域鉄道フォーラム「鉄道事業の再生・活性化に向けて」を開催した。

高原修司 氏

国土交通省鉄道局鉄道事業課長の高原修司氏からご挨拶とともに国が進めている地域鉄道支援対策を中心に説明をいただいた。

地域鉄道は、地域との結び付きを強化し、観光での利用促進等に取り組んできているが、この取り組みが更に大きな動きとなるよう、国土交通省においては「地域鉄道の再生・活性化等研究会」を設けて具体的な施策の検討を進めてきた。その研究会座長を務めた矢ケ崎紀子氏の講演では、地域と密着して沿線需要を確保していくとともに、これまでの取り組み事例を示しながら観光での新たな需要を呼び込む手立てを地域ぐるみでつくっていくことが重要であることが指摘された。吉田千秋氏の講演では、鉄道事業者の立場から、地域との連携が大切であることが述べられた。参加者 169 名

矢ケ崎紀子 氏

プログラム（13：00～15：15）
〇開会の辞：一般社団法人交通環境整備ネットワーク代表理事　佐藤信之
〇来賓挨拶：国土交通省鉄道局
　鉄道事業課長　高原修司 氏
〇講　演
「地域鉄道の再生・活性化の事例から学ぶ」
　首都大学東京　観光科学域特任准教授　矢ケ崎紀子 氏
「地域と共に歩む鉄道をめざして」
　ひたちなか海浜鉄道株式会社　社長　吉田千秋 氏

講演録

https://ecotran.or.jp/act/130608/record.pdf

吉田千秋氏

**⑥第6回地域鉄道フォーラム「女性の視点で語る鉄道の魅力・その活性化」**

2014年6月14日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援第6回地域鉄道フォーラム「女性の視点で語る鉄道の魅力・その活性化」を開催した。

鉄道に関わる第一線の女性の方々に鉄道の魅力とその活性化へのアイディアを語っていただくもので、はじめに来賓の国土交通省鉄道局鉄道事業課長の高原修司氏からご挨拶と交通基本法の成立並びに地域公共交通活性化・再生法の改正について説明をいただいた。

関西佳子 氏

水間鉄道株式会社取締役会長関西佳子氏の基調講演では、会社更生法の適用を受けての再建に至るポイントやその後「駅なかマルシェ」等様々な取り組みについて紹介をいただいた。トークセッションでは「女性の視点で語る鉄道の魅力・その活性化」をテーマとして東洋大学准教授の矢ケ崎紀子氏がコーディネータとなり、女性6人による活発なトークが繰り広げられた。参加者　193名

プログラム（13：00～15：00）

〇来賓あいさつ：国土交通省鉄道局鉄道事業課長　高原修司 氏

〇講演：水間鉄道取締役会長　関西佳子 氏

「水間鉄道の魅力を発信中・笑顔とやさしさ乗せて―会社更生法からの出発―」

〇トーク「女性の視点で語る鉄道の魅力・その活性化」

コーディネータ・東洋大学准教授：矢ケ崎紀子 氏

水間鉄道会長：関西佳子 氏

津軽鉄道顧問：澁谷房子 氏
東武鉄道　広報部課長：髙月京子 氏
鉄道アーティスト：小倉沙耶 氏
鉄道フォトライター：矢野直美 氏

この地域鉄道フォーラム開催を記念して水間鉄道水間観音駅入場券、津軽鉄道金木駅入場券、東武鉄道東武博物館入館券とトーク登壇者の硬券名刺をセットにして発売をした。価格は 600 円。水間鉄道、津軽鉄道でも発売された。

講演録　https://ecotran.or.jp/act/140614/record.pdf

女性の視点で語る鉄道の魅力・その活性化
地域鉄道フォーラム開催記念
水間鉄道
会社設立：大正１３年
営業キロ：
貝塚～水間間　5.5 キロ
写真は、１０００形車両
26.-6.14.
水間鉄道
入場券
水間観音 駅
料金 170円
発売当日１回限り有効
津軽鉄道
会社設立：昭和３年
営業キロ：
津軽五所川原～津軽中里間 20.7 キロ
写真は、２１形車両
26.-6.14.
普通入場券
金木 駅
発売当日１回限り有効
旅客車内に立入る事は出来ません。
東武鉄道
会社設立：明治 30 年
営業キロ：
伊勢崎線ほか 11 路線　463.3 キロ
写真は、東武博物館所蔵の
昭和 26 年製造５７００形車両
26.-6.14.
入館券
大人 200円
当日１回限り有効
東武博物館
硬券入場券・登壇者硬券名刺
入場券・入館券は券面日付に限り有効。払い戻しはできません。
26.-6.14.
普通名刺券
関西 ▸ 佳子
水間鉄道株式会社 会長
一般社団法人交通環境整備ネットワーク発行
26.-6.14.
普通名刺券
矢ケ崎 ▸ 紀子
東洋大学准教授
一般社団法人交通環境整備ネットワーク発行
26.-6.14.
普通名刺券
澁谷 ▸ 房子
津軽鉄道株式会社 顧問
一般社団法人交通環境整備ネットワーク発行
26.-6.14.
普通名刺券
髙月 ▸ 京子
東武鉄道株式会社 広報部課長
一般社団法人交通環境整備ネットワーク発行
26.-6.14.
普通名刺券
小倉 ▸ 沙耶
鉄道アーティスト
一般社団法人交通環境整備ネットワーク発行
26.-6.14.
普通名刺券
矢野 ▸ 直美
鉄道フォトライター
一般社団法人交通環境整備ネットワーク発行

## ⑦第7回地域鉄道フォーラム「暮らしと鉄道」

2015年6月13日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援第7回地域鉄道フォーラム「暮らしと鉄道」を開催した。

2013年（平成25年）に制定された交通政策基本法に基づき、今後の我が国の交通政策の道しるべとなる交通政策基本計画が決定されたのを受けて、私たちの暮らしに密着した鉄道と計画の意図するところは何か、使いやすく安心安全な鉄道のあり方を考えるために開催した。

大石英一郎 氏

来賓の国土交通省鉄道局鉄道事業課長の大石英一郎氏からご挨拶と地域鉄道の現状、それにかかる法整備並びに支援措置について説明を頂いた後、国土交通省総合政策局公共交通政策部参事官の岩城宏幸氏より交通政策基本計画の内容と地域鉄道との具体的な関連についての講演をいただいた。トークセッションでは「使いやすく、安全な地域鉄道を目指して」をテーマに愛知学泉大学現代マネジメント学部講師の田中人氏がコーディネータとなってトークが行われた。参加者115名

岩城宏幸 氏

プログラム（13：00～15：15）

〇来賓あいさつ：国土交通省鉄道局鉄道事業課長　大石英一郎 氏

〇基調講演：「交通政策基本計画と鉄道」

国土交通省総合政策局公共交通政策部参事官　岩城宏幸 氏

〇トークセッション「使いやすく、安全な地域鉄道を目指して」

―交通政策基本計画を踏まえてトークを展開―

コーディネータ／愛知学泉大学現代マネジメント学部講師　田中　人 氏

わたらせ渓谷鐵道株式会社　社長　樺澤　豊 氏

江ノ島電鉄株式会社　相談役　深谷研二 氏

国土交通省鉄道局旅客輸送業務監理室課長補佐　猪狩浩伸 氏

東京神谷町綜合法律事務所弁護士　小島好己 氏

講演録　https://ecotran.or.jp/act/150613/record.pdf

**⑧地域鉄道フォーラム2016「地域鉄道の価値を考える」**

2016 年 6 月 11 日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援地域鉄道フォーラム 2016「地域鉄道の価値を考える」を開催した。

これまで、地域鉄道についての費用対効果分析は、バスに代替した場合と比べて、どちらがより大きな便益があるかを判断してきた。その便益も貨幣価値に換算できる指標に限られている現状から、価値を考えるにあたって他にも大事な視点があるのではないか、それはどのようなものなのかを問うとして開催した。

大野　達 氏

来賓の国土交通省鉄道局鉄道事業課長の大野達氏からご挨拶と地域鉄道の現状、の説明に加え、鉄道の価値には感情論ではなくそれを超えた理屈が支援するに必要との示唆を頂いた。

基調講演は関西大学経済学部教授の宇都宮浄人氏より行われ、「社会的便益」を考えることや「ソーシャル・キャピタル」の視点を持つことの重要性を実例によって示された。

トークセッションでは「地域鉄道の価値とは」をテーマに、宇都宮浄人氏がコーディネータとなってトークが繰り広げられた。参加者　134 名

宇都宮浄人 氏

プログラム（13：00～15：15）
〇来賓あいさつ：国土交通省鉄道局鉄道事業課長　大野　達 氏
〇基調講演：「地域鉄道の価値を考える」関西大学経済学部教授　宇都宮浄人 氏

〇トークセッション「地域鉄道の価値とは」

| | |
|---|---|
| コーディネータ／関西大学経済学部教授 | 宇都宮浄人 氏 |
| 芝浦工業大学工学部教授 | 岩倉成志 氏 |
| 愛知学泉大学現代マネジメント学部講師 | 田中　人 氏 |
| 国土交通省鉄道局技術企画課技術開発室長 | 岸谷克己 氏 |
| 水間鉄道株式会社会長 | 関西佳子 氏 |
| 鉄道アーティスト | 小倉沙耶 氏 |

講演録　https://ecotran.or.jp/act/160611/record.pdf

**⑨地域鉄道フォーラム2017「写真と詩で伝える鉄道の魅力」**

2017 年 6 月 10 日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援地域鉄道フォーラム 2017「写真と詩で伝える鉄道の魅力」を開催した。

鉄道写真家は何をとらえ、どのように鉄道の魅力を伝えようとしているのか、また、鉄道写真に詩を組み合わせることによる表現の可能性について広く論じてもらうと共に東武鉄道において半世紀ぶりの SL 復活運転が行われることからこれまでの復活に向けた取り組みと SL による観光活力創出への期待を伝えたいとして開催した。

大野 達氏

来賓の国土交通省鉄道局鉄道事業課長の大野達氏からご挨拶と訪日外国人旅行者誘客の一助となるよう、駅や車両の案内表示の多言語化や Wi-Fi 環境の整備等新たな支援措置に取り組んでいることの説明をいただいた。

米屋こうじ 氏

基調講演は、鉄道写真家の米屋こうじ氏から「写真で伝える鉄道の魅力」と題して写真の歴史や鉄道を題材とした作品の数々を紹介いただくと共に写真撮影でのポイントを伝授いただいた。東武鉄道株式会社 SL 事業推進プロジェクト課長の守都正候氏からは SL 復活運転を行うきっかけや目的、さらには運転開始に向けての準備状況の報告がなされた。

守都正候 氏

トークセッションは、「地域の鉄道、写真と詩による表現の可能性」をテーマに米屋こうじ氏をコーディネータとしトークが繰り広げられた。参加者　138 名

プログラム（13：00～15：15）

〇来賓あいさつ：国土交通省鉄道局鉄道事業課長
大野 達 氏

〇基調講演：「写真で伝える鉄道の魅力」　鉄道写真家
米屋こうじ 氏

〇特別講演：「SL 復活運転、日光・鬼怒川に新たな魅力を」東武鉄道株式会社　SL 事業推進プロジェクト課長　守都正候 氏

〇トークセッション：「地域の鉄道、写真と詩による表現の可能性」
コーディネータ／鉄道写真家　米屋こうじ 氏

| | |
|---|---|
| 鉄道フォトライター | 矢野直美 氏 |
| 鉄道アーティスト | 小倉沙耶 氏 |
| 詩人・社会学者 | 水無田気流 氏 |

講演録　https://ecotran.or.jp/act/170610/record.pdf

**⑩地域鉄道フォーラム2018「鉄道と音楽」**

2018年6月9日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援地域鉄道フォーラム 2018「鉄道と音楽」を開催した。

「汽笛一声新橋を」からはじまる鉄道唱歌は、全国のさまざまな地域への旅情をかきたてた。今日クラシックからJAZZ、歌謡曲、童謡等様々なジャンルの音楽で鉄道に出会うことができる。鉄道側でもイメージソングの作成や列車の発車合図をその土地に由来したメロディーにする等の取り組みが行われていることから、これまでの鉄道と音楽の関係を紐とくとともに、その未来を語るため開催した。

向谷　実 氏

来賓の国土交通省鉄道局鉄道事業課長の石原大氏からは音楽の力で地域の鉄道がどう元気づけられるか考え、共に音楽の時間を過ごしたいとのご挨拶をいただいた。

ミュージシャンで音楽館代表の向谷実氏の講演では「鉄道と音楽」と題して音楽家としての音へのこだわ

りや鉄道と音楽にまつわる数々のエピソードが披露された。トークセッションは、「鉄道と音楽の未来」をテーマに向後功作常務理事がコーディネータとなって、トークが繰り広げられた。

さらには小倉沙耶氏の司会でセッション演奏が行われ、会場は音楽に包まれた。

参加者　113 名

プログラム（13：00～15：00）

〇来賓あいさつ：国土交通省鉄道局鉄道事業課長　石原　大 氏

〇基調講演：「鉄道と音楽」　ミュージシャン／音楽館代表　向谷　実 氏

〇トークセッション「鉄道と音楽の未来」

| | |
|---|---|
| ミュージシャン | 向谷　実 氏 |
| シンガーソングライター | オオゼキタク 氏 |
| 鉄道アーティスト | 小倉沙耶 氏 |
| コーディネータ／常務理事 | 向後功作 |

講演録　https://ecotran.or.jp/act/180609/record.pdf

## ⑪地域鉄道フォーラム2019「鉄道と映画」

2019年6月8日、東武博物館ホールにおいて国土交通省鉄道局後援地域鉄道フォーラム 2019「鉄道と映画」を開催した。

映画の発明と同時に鉄道がそのスクリーンに登場し、その後も様々な映画において鉄道は主人公にも、また名脇役にもなってきた。近年鉄道側でもフイルムコミッション等を通じ、積極的にロケーションを勧誘する動きもある。そこで映画史から鉄道と映画の関わりを探るとともに、映画において鉄道が果たす役割や期待を論じることとして開催した。

石原　大 氏

来賓の国土交通省鉄道局鉄道事業課長の石原大氏から「鉄道は、単なる移動手段ではなく、それ以上の「存在感」あるいは「役割」というようなものが内在していると感じる。「映画」という切り口から鉄道の持つ魅力とか可能性、日本人の鉄道に対する特別な思い入れとは何であろうか、そのヒントがみつかることを期待する」と挨拶をいただいた。

羽生次郎 氏

基調講演では、羽生次郎氏からは鉄道が映画の中で重要な役割を果たし、鉄道が良く撮れている印象的な映画作品を多数ご紹介いただくとともに映画監督で脚本家の 錦織良成氏からは、「RAILWAYS－49歳で電車の運転士になった男の物語－」の作品作りの経緯や映画へのこだわり、一畑電車や地方の鉄道をとりまく状況について語っていただいた。

錦織良成 氏

トークセッションは、「鉄道と映画のこれから」をテーマに詩人で社会学者の水無田気流氏がコーディネータとなって、トークが繰り広げられた。参加者　109名

プログラム（13：00～15：00）

〇来賓あいさつ：国土交通省鉄道局鉄道事業課長
　石原　大 氏

〇基調講演Ⅰ：「鉄道と映画」元 財団法人運輸政策研究機構会長 羽生次郎 氏

〇基調講演Ⅱ：「出雲発の鉄道映画に込めたメッセージ」

映画監督・脚本家　錦織良成氏

◯トークセッション「鉄道と映画のこれから」

コーディネータ／社会学者・詩人・國學院大学教授　水無田気流 氏

羽生次郎 氏

錦織良成 氏

社会学者・社会哲学者・愛知学泉大学講師　田中　人 氏

講演録　https://ecotran.or.jp/act/190608/record.pdf

(平成29年) 8月24日　木曜日　交　通　新　聞

# 国、研究機関、事業者が探る「地域公共交通」再生への道筋

## 地域鉄道の魅力や存在価値を発信

### 交通環境整備ネットワーク

交通環境整備ネットワークの地域鉄道フォーラムでは、鉄道の再生などについて議論が交わされた

地域公共交通の存続・維持・再生は行政や交通事業者の力だけでは難しく、アドバイザーや応援団的な機関が欠かせない。全国には交通や鉄道を キーワードに活動する団体が多くあるが、その一つが東京に本部を置く「交通環境整備ネットワーク」だ。

スローガンは、鉄道は地域の架け橋です。東京で年1回開く地域鉄道フォーラムなどで、地域鉄道の魅力や存在価値を社会に発信する。

それまで個別に活動していた団体を束ね、一般社団法人として法人格を持たせたのが交通環境整備ネットワーク。本格的な人口減少社会を迎え各地で鉄道廃止が続き、沿線では存続運動が起こるが、2009年4月の整備ネットワーク発足まで全国規模で活動する横断的組織はなかった。

整備ネットワークが地域鉄道再生の根拠とするのが、高齢化社会にあっての移動手段の必要性。国のパーソントリップ調査では、移動手段が自動車（マイカー）に限られる地域は、年齢が上昇するにつれ、トリップ数（外出回数）が急減する。時は鉄道を利用できるが、地域公共交通が機能する地域は減少が緩やか。鉄道は、地域社会を支えるライフライン機能を担う。

さらに、地域鉄道は観光資源としての存在価値を持つ。最近は多くの事業者が観光列車を走らせ、観光客や乗り鉄、撮り鉄の来訪は交流人口を増やす。普段は鉄道に乗らない住民も、「何かの時は鉄道を利用できる」と考えれば地域の安全・安心につながる。

整備ネットワークには、国土交通省、運輸総合研究所出身の原潔代表理事やひたちなか海浜鉄道の吉田千秋社長、愛知学泉大学の田中人講師ら専門家が数多く在籍。鉄道の利用促進から安全性向上まで、広範なアドバイザリー機能を備える。

整備ネットワークの年1回の「般講演」が恒例イベントで、9回目の今年は6月10日に東京都墨田区の東武博物館で「写真と詩で伝える鉄道の魅力」をテーマに開催された。基調講演で鉄道写真家の米屋こうじさんは、鉄道写真が戦前までの車両を大きく写す形式写真から、走行中の車両の迫力を表現する流し撮りなど芸術作品化してきたことを披露。特別講演では、東武鉄道SL事業推進プロジェクトの守都正候課長が観光鉄道としてのSL「大樹」運転の考え方を披露するとともに、車両整備や社員養成で協力を受けるJR各社などに謝意を示した。

トークセッションには、鉄道フォトライターの矢野直美さん、鉄道アーティストの小倉沙耶さん、詩人・社会学者の水無田気流さんが参加。小倉さんは撮影した写真を情報交流SNSサイトに掲載する際、「写り込んでいる人への配慮など、アップ前にもう一度写真を見直そう」と呼び掛け。鉄道をテーマとする作品も多い水無田さんは、鉄道写真に詩的コメントを付ける鉄道愛好家を「ヨミ鉄」と命名した。

## 観光列車で鉄道ファン誘客

### 「鉄道写真詩コンテスト」作品募集

交通環境整備ネットワークの地域鉄道フォーラムは、フォーラムの成果を引き継ぐ形で「鉄道写真詩コンテスト」を企画し、作品を募集している。

鉄道の写真に400字程度までの自由詩や散文詩を添えて応募すると、審査を経て、国土交通省鉄道局長賞のほか、米屋こうじ賞や水無田気流賞を選定し、賞品の旅行券を贈る。

国交省鉄道局、鉄道博物館、東武博物館、日本旅行、交通新聞社「旅の手帖」が後援・協力。締め切りは9月30日（必着）。応募方法の詳細は同ネットワークのホームページで。

2017年8月24日交通新聞